

猫の健康管理プログラム



猫を飼ったら、ずっと健康で長生きして欲しいと願うと思います。猫の健康を保つためには注意しなければならない病気があり、これらは定期検査で早期発見したり予防したりすることで未然に防げるものもあります。また、ライフステージにより注意すべき病気が変わってきますので、猫の一生を考えた健康管理プログラムが必要です。ここでは、猫ちゃんができるだけ健康で長生きできるように生涯健康管理プログラムの一例をご紹介します。

生後2～3ヶ月

ワクチン接種(3種混合ワクチンなど)



3種混合ワクチンが基本ですが、必要であればFeLVのワクチンも加える。
※ワクチン回数を1年1回とするかは動物病院により異なりますので、主治医にご相談ください。

3～4週後に追加のワクチン接種



飼育環境により猫白血病(FeLV)猫免疫不全ウイルス(FIV)のウイルス検査や一般血液検査(全血球計算と血液化学検査)を行う。

検便、外部寄生虫検査および駆虫



6ヶ月齢

不妊手術、去勢手術



猫心筋症などの心エコー検査

1～6歳

泌尿器系の検診



腎結石や膀胱結石の検査

7歳以上

総合検診(ドック検診など)を毎年もしくは隔年



10歳以上

総合検診に加え、甲状腺ホルモン検査



猫では伝染性のウイルスが多いため、室内飼いであっても健康維持のためにはワクチン接種が必要です。同居猫がFeLVやFIVに感染していた場合には部屋をわけて飼育するか、これらのワクチン接種を行う場合があります。一見健康な猫にも心筋症などの心疾患が潜んでいる可能性があるため、1歳までに(場合により毎年)心エコー検査を実施するのが良いでしょう。

無症状でも腎臓結石や膀胱結石が見られることが多く、定期的に検診が必要です。積極的予防のためには動物病院で処方されるフードに変更することが推奨されます。

7歳以上では人間の中高年にあたり、病気も増える傾

向があるので、人間ドックのような総合検診を1年もしくは隔年に1回受けることをお勧めします。

これらの健康管理プログラムは動物病院により異なりますので、かかりつけの動物病院に相談の上、行ってください。

